

令和7年度 第3回 学校運営協議会(全日制部会)議事録

校名	大阪府立佐野工科高等学校
校長名	橋本 敏和

開催日時	令和8年2月19日(水)15:30～17:00
開催場所	佐工會館 1階会議室
出席者(委員)	山田啓次会長、野本力副会長、町谷雄二委員、山本真委員、藤澤滋夫委員、杉本英雄委員
出席者(学校)	橋本校長、妻木教頭、中村事務部長、飯田首席(支援)、金丸首席(教務)、中嶋(産業創造)、山際(生活指導)、赤穂(進路指導)、豊嶋(保健人権)、五十棲(2年)、坂本(3年)、堀川(1年)
傍聴者	なし
協議資料	令和7年度学校経営計画に係る評価、令和8年度経営計画
備考	

議題等(次第順)
・令和7年度 各分掌・系よりの総括 ・令和7年度 学校経営計画の評価 ・令和8年度 学校経営計画の目標説明
協議内容・承認事項等(意見の概要)
○令和7年度総括 (1) 教務部 現在、将来構想委員会で校務全般を見直し中。チャレンジ、ラーケーションの改善、教務内規(進級・卒業)についても検討中。 (2) 生活指導部 今年度の懲戒件数と内容について。 (3) 進路指導部 今年度の進路実績及びキャリア教育の内容について。 (4) 保健人権部 健康の保持に係る今年度の取組みと人権尊重にかかわる取組みについて。薬物依存防止については岸和田青少年サポートセンターと連携し、講演会実施。 (5) 各系・各専科 基礎学力の向上には落ち着いた学習環境が必要、一部のクラスについてはさらなる改善が必要(普通科) コンテストに積極的に参加するとともに、資格検定にも注力し、達成感とともに自尊感情を育てている(産業創造系) 外部講師を招き、最先端実実を学ぶ。国家資格としては電気工事士1種9名、2種41名が合格(電気系) (6) 支援教育・不登校対応 支援教育の流れと不登校対応の流れを説明。 (7) 広報および地域コンソーシアムについて 9月20日のオープンキャンパス以降、個別の学校見学が急増。地域連携では出前授業が急増している。 ○ 質疑応答 ・広報については今年から始めたのか？(地域住民) ➡ これまでも実施していたが、今回報告の方式を変更した(広報・教頭) ・広報活動は増やして、参加した生徒の実績になるようにしてほしい。2027年度から始まる公立高校の併願制についてはどう対応するのか？経営計画に位置付けておく必要性はないのか？(保護者代表) ➡ 工科高校は普通科に比べ圧倒的に視覚に訴える部分がある。広報に関しては「素人目線で見た工業技術」という観点で情報誌を発行している(教頭) ・生徒の変化は本日の資料から明らかとなっている。社会の変化に伴うものということはない。生徒の状況改善に独自の取組みは可能。とりわけ生徒指導にかかわる教職員配置は増やすべき(学識経験者) ・アンケートの集計を見ると、回答率が低いことが気になる(生徒61%、保護者17.8%) ➡ 紙媒体でアンケートを取っていた時代は、生徒で9割以上、保護者も5割以上はデータを取っていたが、インターネットでのアンケートに変更してから極端に低下した(教頭) ➡ 本校でも同様の傾向がある。ネットのアンケートでは回答率が下がる(中学校校長) ○令和7年度学校経営計画の評価について ・数年前まで、佐野工科高校は非常に厳しいイメージがあった。ここ数年は荒れていると聞く。保護者としては、学校に行っている様子を重視、指導に対する満足度は高いのは校内の指導に納得している、ということなのか(保護者) ・本校から佐野工科に希望する生徒は多いのだが、「佐野工科は荒れているのか？」という問いかけが保護者から来た。定期考査の廃止もネガティブにとらえる保護者も多い。 しんどい状況での変化はどうしてもネガティブな印象を与えてしまいがち。それは残念に思う(中学校長)。 ・個別見学者が増えていることはよいこと。欠席・遅刻者が増えているのは気になる。企業にいと遅刻・欠席者は辞めていくことが多い。次年度はその点の指導も強化されると期待している(卒業生)。 ・様々な課題があるが生徒指導体制の充実には舵を切ってもらい、改善すべきところは早急に対応してもらいたい。スタンスとしては、生徒の話をしっかり聞きつつ、「ダメなものはダメ」と毅然とした態度で取り組んでもらいたい。服装・行動も含めて、外部から来た人ががっかりすることのないようにしてほしい(学識経験者)。 ○経営計画の協議 ・令和7年度の評価については、ご提案について全会一致で承認。また、次年度の経営計画の基本方針も了承。